

## 2017年8月のブルーベリー農園その2

安芸の郷ではブルーベリーの生食の注文受け付けが8月5日のブルーベリーまつりからスタート。

たくさんのブルーベリーが必要となる。そのブルーベリーの主な供給源が東広島市豊栄町のブルーベリー農園なので多くの人たちの協力で農園の摘み取りが行われている。



お盆の16日には2組の古くからの友人家族がブルーベリーの摘み取りにお見えになった。昼休みは庭のテントの下でやつつけ仕事でいつものしつらえる簡易のテーブルを囲み食べながら談笑。日陰は涼しいので広々とした空間と風がごちそう。



一番下の畑のブルーベリー木の列は8列ある。申し合わせたわけではないがこの日はそれぞれの列に1~2人が散らばって摘み取りが始まった。あちこちに広がる田んぼの稲はもう黄金色染まっている(8月26日)



テントの側にある庭の石臼の縁にトノサマガエルがじいと座っている。人がいるときは蛇も来ないので安全なのかも。(まだ小さい、今年生まれらしい。8月16日)



同じ畑のブルーベリーの1本の木全体にミノムシが発生。農薬を使用しないので一匹一匹取り除いて駆除した。たっぷり30分はかかる。全体の中でこれ1本だけなのでちょっと安心。(8月27日)



ブルーベリー農園の集落にある連続した田んぼ。こ



こは 40 年以上前に圃場整備をした稲田で広くては長くて高さに変化があつて美しい。黄色に色づくところ、まだ青いところ。いくつかの種類のコメが植えてある。(8月23日)



稲は偉大で、農耕が始まる 2 千年前から同じ田んぼでも毎年嫌がることなく成長し収穫できる。ブルーベリーの寿命は植えてから 30 年位といわれている。



農園の庭。茎が倒れてしまつて、それでも 90 度曲がつて天をむいて咲くカクトラノオ。(8月27日)



農園の山裾の畑の富有柿。毎年剪定をしていないので去年は少なかった。今年は生り年らしくたくさん実がついている。秋が楽しみ。



農園の山の法面に咲くイワシャジン。(8月20日)



午後 2 時。摘み取りを終わって休憩。ミキサーにかけて作る冷たいブルーベリージュースを味わう。9 月初めで摘み取りもほぼ終わる予定。(8月27日) あともう少し。  
毎月出会うキジの夫婦は、今月は合わずじまい。人が多いのでかれらも落ち着かないか？



農園の前の道路沿いに咲く自然に生えたテッポウユリ。(8月27日)

2017 年 8 月 31 日  
社会福祉法人安芸の郷  
理事長 遊川和良